

# 関西大学高等部・中等部 2017年度学校評価報告書



2018年3月

# 目 次

1. 本校の概要.....	1
2. 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策 .....	1
3. アンケートの実施状況について .....	8
4. アンケート結果の分析 .....	8
5. 学校関係者評価委員会からの評価結果 .....	14
6. 校長の意見書.....	15
7. アンケート結果.....	16

## 参考資料

2017年度 関西大学高等部・中等部点検・評価アンケート集計

## 1 本校の概要

### (1) 沿革

2010年4月に高槻ミュージックキャンパスの地に初等部からの一貫教育をめざして、中等部3クラス、高等部4クラスが開校。施設設備面では教室に電子黒板が標準装備され、マルチメディア教室をはじめPC、iPadも多数用意され、ICT教育環境が整っている。中等部では週7時間の英語と「考える科」による思考力の育成を特徴としている。高等部は2014年に文部科学省からスーパーグローバルハイスクール(SGH)として採択を受け、開校当初から力を入れてきた探究力育成のプロジェクト学習をさらに発展させていく努力を重ねている。

生徒は初等部からの内部進学生、中等部からの入学生、高等部からの入学生という多様性を持っており、異なるバックグラウンドを持つ生徒に対応するためにカリキュラムを工夫し、先取りの教育よりも深化の教育を追求している。中高6年・初中高12年一貫教育のための教育活動をさらに充実させるべく、研究を重ねている。

### (2) 建学の精神、教育理念・教育方針・教育目標等

関西大学の教育理念である「学の実化」に基づき、「学理と実際との調和」を基本とする独自の教育を展開し、一貫教育を通じて「確かな学力」「国際理解力」「情感豊かな心」「健やかな体」「高い人間力」を育てることを本校の教育理念としている。

## 2 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

### (1) 重点目標①：生徒の学力を向上させて各自の進路希望を実現させる（分かるようになる、できるようになる授業が展開される学校）

達成状況の目安：(◎)大幅達成・(○)達成・(△)未達成・(×)大幅未達成

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 中等部では「5教科学力の底上げ」と「家庭学習習慣の定着」のため、生徒が必要を感じたり学習意欲をかき立てられたりする授業内容と家庭学習課題を研究する。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中等部生徒の学力推移調査データにおける平日の学習時間が1時間未満、休日の学習時間が2時間未満の生徒が20%以下。</li> </ul>	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>学力向上のためには、生徒の知的好奇心を引き出す授業が欠かせない。生徒の興味を引き出せば、生徒はその続きをやらうとするので、家庭学習を行う可能性が高まる。各教員はそのような授業を追求し、iPadなどのICT機器を使用したり、演習形式で解説をしたり等、創意工夫して生徒に内容理解・定着させる授業を行った。</p> <p>各学年においては、スローラーナーが往々にして課題未提出者と重複するので、定期的に居残りさせるなどして指導した。</p> <p>中等部では学力推移調査の学習実態データを毎回学年毎に集約し、教科担当者と連絡を取り合い、指導すべき要点の情報共有を行った。学力の定着を見るために、中等部は</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートの「授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか」と「課題や提出物にまじめに取り組み、家庭学習習慣は身につけていると思いますか」という設問に対する回答の1, 2（肯定的評価）の割合が70%以上。</li> </ul>	<p>学力推移調査を今年度3回実施した。</p> <p><b>【達成状況(Check)】</b> (△)</p> <p>中等部生徒の学力推移調査データにおける平日の学習時間は、1時間未満が25.8%、休日の学習時間が2時間未満の生徒は39.4%であった。</p> <p>中等部生徒アンケートでは、「授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか」という設問に対しては、1が15.7%、2が50.7%、3が23.4%、4が10.3%であった。肯定的な評価は66.4%ということになり、目標の70%以上には届かなかった。</p> <p>「課題や提出物にまじめに取り組み、家庭学習習慣は身につけていると思いますか」という設問に対しては、1が22.2%、2が42.7%、3が26.2%、4が8.5%であった。肯定的な評価は64.9%ということになり、これも目標の70%以上には届かなかった。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>生徒は学習していることに意味や価値を見出したり、力がつくと感じたり、面白いと思ったりすると、家庭で続きをするようになる。まずはその部分に注力したい。一方で家庭学習習慣を身につけさせるために、何をどう学習すればよいかを授業で体験させたり確認させたりすることも、特に低学年では必要である。また、各教科担当者による課題→提出→確認（テスト）のサイクルといった地道な取組も求められる。定期考査や模擬試験後の解答解説や担任との面談を利用し、個別に具体的な指示を与え、生徒の家庭学習に対する意識を向上させ、学習習慣の定着を図りたい。加えて、今後は成績各層にフォーカスした学習内容の精選、補習や勉強会が必要であり、今後検討していきたい。</p>
<p>イ 高等部ではキャリア教育を充実させ、進むべき道を決めた上で逆算して学習計画を立て、自主的に学習をする姿勢を身につけさせる。</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートの「授業を通じ、自分の学力は向上してい</li> </ul>	<p>自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>キャリア教育の一環として関西大学の学部説明会参加・法学部連携セミナー・商学部授業の受講等、各自がどのような学部選択、ひいては職業選択するのかを、早い段階で考えさせる目的で実施した。それらの行事に参加した生徒はおしなべて目的意識が明確であり、大学進学に対しても高い目標を掲げ、学業に励む生徒である。その結果、高い学習成績を収めている。</p>

<p>ると感じていますか」、「将来やりたいことが見つかり、それに向けて逆算をして準備を始めていますか」、そして「関西大学やその他の大学に関する情報が増え、大学進学モチベーションが上がってきましたか」という設問に対する回答の1,2(肯定的評価)の割合が70%以上。</p>	<p>スタディーサポートは高等部1年、2年で4月と9月の2回実施した。模擬試験後の面談では、個人成績票の読み取り方や教科別に克服すべき単元の指摘などを丁寧に担任が行った。</p> <p><b>【達成状況(Check)】 (△)</b></p> <p>高等部生徒アンケートの「授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか」という設問に対しては、1が16.0%、2が48.4%、3が27.0%、4が8.6%であった。肯定的な評価は、64.4%ということになり、目標の70%以上には届かなかった。</p> <p>「将来やりたいことが見つかり、それに向けて逆算をして準備を始めていますか」という設問に対しては、1が22.1%と2が36.0%で、合わせて58.1%となり、これも目標は達成できなかった。「関西大学やその他の大学に関する情報が増え、大学進学モチベーションが上がってきましたか」という設問に対する回答は、1が29.1%、2が47.7%であり、合計76.8%となり、目標を達成した。これは、学部説明会への参加、学年での情報提供が功を奏し、生徒の進学意識が向上したことが要因に挙げられる。その結果、進路実績では、本年度の関西大学への内部進学は希望者が全員合格。難関国立大の合格発表では、京大1、阪大7、神大3、また開学以降初めて現役で山形大医学部、香川大医学部医学科にそれぞれ1名ずつが合格した。他にも難関国公立大に現役で24名合格と素晴らしい結果であった。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>高校に進学し、将来の自己の人生設計をより明確に持たせるため、大学入試情報を生徒に早い段階から計画的に情報伝達し、指導することが必要である。</p> <p>2020年度大学入試改革が実施される中、高等部1年入学後から、早い段階で将来の大学入試に向けての意識づけを行い、将来の各自の人生ビジョンを持たせるようにしていきたい。今までの学習内容の違い、学習方法の向上を念頭に早いスタートがきれるように学年を中心に展開していきたい。</p> <p>定期考査後の答案返却時に改めて授業ガイダンスを行い、予習・復習の重要性を生徒に理解させる取組を1、2年で行うことで、家庭での学習を自主学習の時間に変えていきたい。</p> <p>また、生徒に具体的な学習目標を持たせ、各自の進路</p>
---	--

	実現に向けて努力させる取組を継続していく予定である。
--	----------------------------

(2) 重点目標②：考動力とチャレンジ精神にあふれ、人を思いやり、言葉を大切にする生徒集団を育成する（笑顔と感動のある充実した学園生活が送れる学校）

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 各授業や学級会活動、生徒会活動、行事などを通して、他者を理解し、受け入れ、思いやる心を備えた、人権を尊重し、いじめを許さない、道徳観、倫理観の高い生徒を育成する。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートの「マナーやモラル向上のための指導によって、規範意識が昨年より高まったと思いますか」、「いじめを許さない指導が日常的に行われていると思いますか」、「他者への貢献や人権意識を高める指導が日常的に行われていると思いますか」、「異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していく力がついてきましたか」という設問に対する回答の1, 2（プラス評価）の割合が70%以上。</li> </ul>	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>関西大学の一員としての帰属意識の涵養のため、中高1年生の宿泊研修では、関西大学への理解を目的とした講座を実施した。関西大学との連携授業に加え、千里山キャンパスでのフィールドワーク、総合関関戦の試合応援（本年度は雨天のため中止）、体育祭における大学応援団本部の指導による演舞、高等部4期生宮原知子オリンピック出場応援会の実施時の応援団演舞（高等部卒業生）等、様々な学校行事に関大理解の要素を盛り込み実施した。中等部3年生では、高槻病院から「命の学習」と題して、生命の尊さを学習した。この取組は以前からも実施しており、高い倫理観を育成することにつながっていると考えられる。</p> <p>保護者に対する関西大学への理解の取組は、11月に千里山キャンパスツアーを実施し68名が参加し好評を得られた。</p> <p>オープンキャンパスでは、学校説明・会場の受付・誘導ボランティア・校内説明を募り、またクラブ体験を実施することで、本校への帰属意識の高揚感を体感させた。学校説明会で一般来校者の前に立つことで関大の一員であることを自覚する機会とした。</p> <p>体育祭や文化祭など大きな行事では、生徒が主体的に活動することによって他者への思いやりや、異なった考えを取り入れながら、受け入れる姿勢が涵養されていった。</p> <p>また、人権講演会を実施し、いじめを許さない、見て見ぬ振りをしない姿勢を育成してきた。</p> <p>【達成状況(Check)】 (△)</p> <p>「マナーやモラル向上のための指導によって、規範意識が昨年より高まったと思いますか」という設問に対しては、中等部生の62.4%、高等部生60.6%が肯定的評価をしたが、目標の70%には届かなかった。</p> <p>「いじめを許さない指導が日常的に行われていると思いますか」に対する肯定的な回答は、中等部生64.4%、高等</p>



	<p>部生 67.3%で、これも 70%には届かなかった。</p> <p>「他者への貢献や人権意識を高める指導が日常的に行われていると思いますか」に対しては、中等部生 62.4%、高等部生も 62.4%が肯定的な評価をしたが、これもまた 70%を切った。</p> <p>「異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していく力がついてきましたか」は、生徒全体で 72.9% (中等部生 69.3%、高等部生 75.7%) が肯定的評価をしており、目標の 70%を超えた。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>家庭で家族の溢れる愛情を受け、学校で厳しくも温かい教員に見守られて歯を食いしばって努力し、成功体験を重ねていく生徒は精神的に満たされており、問題を起こさないし、心が温かい。とは言え、より一層、全体や個別に指導する機会を増やし、学校という社会、実社会での規範意識を高めること、クラブ活動を通じた部員の自律性の育成、授業や行事、あるいは日頃の活動を通じた生徒の人権意識を高める取組みなど、生徒のために学校でできることを全力で行っていきたい。</p>
<p>イ 学級会活動、生徒会活動、各行事などに積極的に参加し、思考→判断→行動→反省→改善していく、考動力と自治力のある生徒集団を育成する。</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートの「学校生活は楽しいと感じていますか」、「この学校に入学して良かったと思いますか」、「各学校行事の意義や目的を理解しており、行事を経験する中で自分の成長を感じますか」という設問に対する回答の1, 2 (肯定的評価) の割合が70%以上。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>iPad を導入した中等部では、生徒による中等部 ICT 委員が中心となり、生徒の主體的な活用法を考えさせた。ICT 委員会を定期的に開き、全体への正しい使用の啓発活動に励んだ。</p> <p>台湾師範大附属中高、シンガポールホワチョン校からの短期交換留学生の来訪時には積極的に国際交流委員会がホスト役を務め、文化祭でも海外研修等の紹介、報告展示を実施した。また、3月には中等部3年生のカナダ研修旅行時の交流校の一つであるセントマイケルズ高校の修学旅行の大阪案内を実施した。</p> <p>本年度の体育祭、文化祭でも生徒による企画委員会・生徒会執行部が、年々充実度を増してきている。教員側はできるだけ手を出さず、生徒会・ボランティアスタッフを中心に、生徒中心で進めた。結果、生徒の自主性・責任感を育てることができた。生徒が企画運営するという経験を重ねていきたい。</p> <p><b>【達成状況(Check)】</b> (◎)</p> <p>「学校生活は楽しいと感じていますか」に対しては、中</p>

	<p>等部生の 81.7%と高等部生の 87.6%が肯定的な評価をしている。</p> <p>「この学校に入学して良かったと思いますか」に対しては、中等部生の 78.0%と高等部生の 72.7%が肯定的な評価をしている。</p> <p>「各学校行事の意義や目的を理解しており、行事を経験する中で自分の成長を感じますか」という設問に対する肯定的回答は、生徒全体では 72.7%（中等部生が 69.3%、高等部生が 75.5%）であり、各設問に対する肯定的評価はいずれも目標の 70%を超えた。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>いずれの項目も目標はクリアしたが、大幅にクリアしたわけではないので、更に生徒の満足度を上げるべく、充実した授業内容と教育的愛情を持って生徒に接していきたい。また、学校行事を、より生徒主体の活動へと移していきたい、生徒の自治を確立していきたい。</p>
--	---

(3) 重点目標③：生徒を理解し、適切な指導をすることで信頼関係を築く（教師と生徒が信頼関係で結ばれた学校）

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア（初等部、）中等部、高等部、大学が連携を図り、一貫教育の利点を生かして生徒を長期的展望で育てる意識を持ち、教員が一人ひとりの生徒と向き合い、生徒理解に努め、それぞれに合った生活指導や進路指導をすることで教師と生徒の信頼関係を築く。</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「先生とのコミュニケーションが十分にとれ、先生の指導の意図を理解していますか」と「高大あるいは中大、中高の学校同士の教育連携があると思いますか」という設問に対する回答の 1,2(肯</li> </ul>	<p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>本年度は 2 度の初中連携会議を実施し、初中の教員が一堂に会して授業内容や生徒の情報交換を行った。初等部で作成しているポートフォリオはまだ中等部高等部で十分活用できていないので、その点についての話し合いも行った。</p> <p>生徒の思いや悩みを聞くために、担任は面談を実施した。進路指導に関しては、特に高 3 は 3 年計画で生徒を育て、前述のように素晴らしい結果を残した。</p> <p><b>【達成状況(Check)】</b> (△)</p> <p>「先生とのコミュニケーションが十分にとれ、先生の指導の意図を理解していますか」という設問に対する中等部生の肯定的回答は 59.2%、高等部生は 66.5%であった。</p> <p>「高大あるいは中大、中高の学校同士の教育連携があると思いますか」という設問に対する回答のうち肯定的なものは中等部生が 62.9%、高等部生が 71.3%であった。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>今年度から初等部の管理職と中高等部の管理職は月に 1 回、情報交換会を持つようにした。今後もそれを継続し、</p>



<p>定的評価)の割合が70%以上。</p>	<p>学校行事の調整のみならず、児童生徒の情報交換を更に活発に行い、生徒理解を深めていきたい。そしてそれを中高の教員が共有し、12年一貫教育の中でそれぞれの学校がそれぞれの役目を果たし、情報の伝達がうまく行われてこそ、生徒も安心して学校生活を送れるのであり、その意味での進路指導も充実させたい。</p> <p>今年度は高大連携が活発に行われたし、中高の教育連携も心がけてきたが、中大連携が不足していた。そのことは中等部生の大学進学に関する意識の低さからも見て取れる。次年度は中大連携のプログラムを増やすなどして、中等部生の意識を高めたい。</p> <p>また、生徒とのコミュニケーションに関しては、日常的な会話だけでなく、進路に関する相談、学習に関する相談、学校生活に関する相談などを日常的に受け付けるなど、生徒にアナウンスをすることでさらなる充実を図る予定である。</p>
<p>イ 学校生活の中で起こる様々なトラブルに迅速・適切に対処し、生徒が悩みや不安などについて相談したり、目標や夢などについて語ったりする場所や環境を整備する。</p> <p>【評価指標】 「先生方は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていると思いますか」、「悩みが生じたときに、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか」という設問に対する回答の1,2(プラス評価)の割合が70%以上。</p>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】 トラブル等が発生した際には、クラス担任、学年生徒指導係、学年主任が初動に当たる。そして、生徒指導主任・人権教育主任にアドバイス等をもらう、指導に加わることで解決に導いていくようにしている。また、教員で対応できない問題については、養護教諭・スクールカウンセラーで対応できる仕組みを構築している。</p> <p>【達成状況(Check)】 (△) 「先生方は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていると思いますか」という設問に対しては、中等部生の56.1%、高等部生の57.4%が肯定的な評価をした。 「悩みが生じたときに、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか」という設問に対する回答のうち肯定的なものは、中等部が53.6%、高等部が63.0%で、2つの項目とも70%には及ばなかった。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】 生徒は教員に温かさを求めている。また、迷ったときの適切な指針も期待している。生徒の将来を考えて厳しく接することは当然のことだが、教育的愛情が伝わらなければ、生徒は教員に心を開くことができない。問題は</p>

	<p>起こるものであり、大切なことは問題が起こった時にどう解決し、どう再発を防ぐかを知ることである。それが生徒にとって学びであり、社会性を身につけるための一歩となる。そのことを意識して生徒に向き合いたい。</p> <p>また、提出物にコメントを書くなどして、個別に生徒を大切にしているメッセージを送ることも、生徒が教員を信頼することにつながる。悩みや問題が生じた時に、担任をはじめとする教員や学校カウンセラーに相談ができるかどうかは、体制と言うより、教員やカウンセラーとの人間関係によるところが大きいので、その部分を全教員と共有し、取り組んでいきたい。</p>
--	--

### 3 アンケートの実施状況

本年度の学校評価活動方針案は、5月15日の自己点検・評価委員会です承され、6月8日の職員会議で発表した。関西大学自己点検・評価委員会併設校部門委員会実施要項の内容に関しては、本校の実情に合わせて以下のような評価活動を実施した。

	項目	中等部・高等部
共通方針	組織面の自己評価	11月6日の自己点検・評価委員会で各主任に対して組織としての自己点検・評価を依頼。 11月8日職員会議において、全教員による「組織面の自己点検・評価」アンケートを実施。
	学校関係者評価	学校関係者評価委員会を開催し、実施している。
	第三者評価	外部評価委員会に委ねる。
相違点	教員個人による自己点検・評価	教員評価制度の活用により、学校運営、学ぶ力の育成、自立・自己実現支援における目標を各教員が設定し、自己申告による評価及び校長面談を実施している。
	児童・生徒の評価	11月中旬に中等部・高等部ともに「学校生活全般」に関するアンケートに学校評価共通項目を盛り込んで実施。
	保護者の評価	11月中旬に中高等部の全保護者を対象に実施。

### 4 アンケート結果の分析

#### (1) 学校全般

設問1の「学校生活は楽しいと感じていますか」に対しては、中等部生の48.1%（中等部保護者48.0%）が「そう思う」、33.6%（同39.5%）が「どちらかと言えばそう思う」と回答している。高等部生は46.6%（高等部保護者48.3%）が「そう思う」、41.0%（同37.9%）が「どちらかと言えばそう思う」と答えている。昨年度は中等部が「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」を合わせて85.9%、高等部が88.0%であったので、若干下がってはいるものの、依然として高い満足度を誇っている。

設問2の「この学校に入学して良かったと思いますか」に対しては、中等部1年生の45.2%（中

等部 1 年生保護者 54.2%) が「そう思う」、42.9% (同 36.4%) が「どちらかと言えばそう思う」と回答し、高等部 1 年生は 30.8% (高等部 1 年生保護者 42.6%) が「そう思う」、45.5% (同 48.8%) が「どちらかと言えばそう思う」と答えている。卒業の年に当たる 3 年生の満足度は、中等部 3 年生が 38.0% (中等部 3 年生保護者 28.6%) と 43.5% (同 41.7%)、高等部 3 年生が 18.9% (高等部 3 年生保護者 47.7%) と 54.5% (同 38.5%) となっている。これらも昨年度と比較すると若干下がっており、特に高等部 3 年生の満足度と保護者の満足度に大きな乖離があるのが気になるところだが、これは 11 月時点での生徒の感想であり、開校以来最も優秀な大学入試結果が出ている 3 月時点では、特に高 3 の満足度は上がっているものと推察される。

設問 1 に対する教員の回答は、「そう思う」が 5.1%、「どちらかと言えばそう思う」が 94.9% であり、設問 2 に対する教員の回答は、「そう思う」が 0%、「どちらかと言えばそう思う」が 79.5% と、生徒の満足度と比較して控えめな評価をしている。

## (2) 学校運営

「建学の精神に基づく教育方針・教育目標は、教職員・保護者などの関係者によく浸透している」かどうかに関しては、「そう思う」教員 2.6%、中等部生徒 15.4%、高等部生徒 12.4%、中等部保護者 36.2%、高等部保護者 31.9% で、「どちらかと言えばそう思う」が教員 48.7%、中等部生徒 42.7%、高等部生徒 43.2%、中等部保護者 52.4%、高等部保護者 58.8% であった。ここから分かることは、保護者は学校を選ぶ際、教育方針や教育目標をパンフレットやウェブなどを通して熟読しておられること、教員は開校してまだ 8 年しか経たない学校をどう運営していくかに関して確固たる方針を共有することができておらず、不安に思っていることが推察される。今後、生徒に対しても校風や建学の精神が浸透するような教育を自信を持って施すことができるために、意思統一を図りたい。

会議の有効性に関しては、48.7%の教員が「どちらかと言えばそう思う」、35.9%が「どちらかと言えばそう思わない」、15.4%が「そう思わない」と答えており、「そう思う」と回答した者がおらず、否定的な回答をした教員が半数を超えた。職員会議で議事がスムーズに進まないことがあり、否定的な評価はそれに対して改善を求める声であると受け止めなければならない。

教員間連携に関しては、教員のうち、「そう思う (以後、1 と表記する)」が 5.1%、「どちらかと言えばそう思う (同 2)」が 51.3%、「どちらかと言えばそう思わない (同 3)」が 33.3%、「そう思わない (同 4)」が 10.3% と、肯定的な評価と否定的な評価がおおよそ半々に割れた。管理職と教員との連携も、教員のうち、1 が 0%、2 が 51.3%、3 が 33.3%、4 が 15.4% であり、改善が必要である。今年度はすべての管理職が代わり、全員が管理職未経験者であったので、先生方には種々ご迷惑をおかけした。来年度はその部分を改善し、円滑な公務運営ができるよう注力したい。

次に、ウェブや学級通信等を利用して、本校の学校生活に関するきめ細かい情報提供をしているかという設問に対しては、74.3%の教員と 71.8%の保護者が肯定的に評価した。昨年度はそれぞれ 57.8%と 57.0%であったので、大幅に上昇したことになる。これは教員と事務職員との連携の高評価 (教員のうち肯定的評価が 89.8%) に見られるように、教員と事務職員がよく相談し、事務職員が中心となって積極的にウェブで学校の情報を発信したことによる功績である。学校行事に関しては即座にウェブにアップロードされており、そこから学校生活の情報を入手している保護者は多いと考えられる。また、学級通信を定期的に配布して、クラスの様子を伝えている教員がいること、それに加え、入試広報部は生徒募集のための様々な工夫を行い、ウェブやパンフレットを改善し、

オープンスクールを増やすなどして、本校の魅力を伝えようと努力している。

危機管理に関しては、教員、保護者とも避難訓練や安全対策、情報管理が80%を超える肯定的な評価を得た一方、教員は「事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっているか」という問いに対しては、1が2.6%（保護者28.3%）、2が53.8%（同47.7%）、3が33.3%（同17.8%）、4が10.3%（同5.1%）と、やや低く評価した。10月23日に大型の台風が近畿地方を襲った際に、6時時点で登校としていたものを一部地域で電車が止まっていることを把握して臨時休校にしたため、登校しようとして一旦家を出た生徒たちに連絡を取ることができず、混乱を招いてしまったことを反省すべきと考える教員が多かったこと、更なるきめ細やかな生徒指導を求める声が数字として表れたものとする。生徒も「先生方は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていると思いますか」という問いに対して、1が13.6%、2が43.3%、3が27.2%、4が15.6%であったので、真摯に受け止め、より適切な対応を検討していきたい。

本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取組や、地域人材の活用に関しては、教員の61.6%、保護者の78.7%が肯定的な回答をした。ここまでのところで、概ね良好な評価をしてくださる保護者に対して、教員はまだまだ改善の余地があると考えており、本校教員の向上心の強さがうかがえる。

### (3) 知育（学習指導）

まず、学力向上のための組織的な取組に関しては、1が教員5.1%、保護者21.1%、2が教員38.5%、保護者44.5%、3が教員46.2%、保護者26.4%、4が教員7.7%、保護者7.7%であった。今年度は学習指導部の位置づけが曖昧になってしまい、学力補充のための全校的な計画が示されなかったことが教員の低評価の一因となっていると推察される。一方でICTを駆使した探求型の授業、基礎基本の定着を目指した授業という両輪を同時展開するという方針は浸透しつつあり、今後も更なる研究を進めていきたい。

キャリア教育の充実に関しては、教員は1が5.1%で2が56.4%、生徒はそれぞれ中等部生が17.4%と29.3%、高等部生が22.1%と36.0%、保護者は20.6%と42.9%であった。生徒が将来のビジョンを持ち、逆算して準備を始めることがなかなかできていないことがうかがえる。「関西大学やその他の大学に関する情報が増え、大学進学モチベーションが上がってきましたか」という問いに対しては、中等部の16.0%の生徒が1、33.3%の生徒が2と回答した。前述のように、高等部生の8割近くが大学進学に向けた心構えができつつあるのに対して、中等部生は大学進学に関してまだまだ意識が低いことがうかがえる。

「将来やりたいことが見付き、それに向けて逆算をして準備を始めていますか」という問いに対して否定的な回答した高等部生が4割強いたことは、学部選択のミスマッチにもつながる可能性があり、更なるキャリア教育の充実が求められる。

主体的で対話的な深い学びに関しては、教員は1が10.5%、2が68.4%、3が21.1%、4が0%であった。保護者の評価はそれぞれ22.3%、51.9%、19.8%、6.0%であったので、教員が自らに厳しく採点していることが分かる。教員から一方的にベクトルが出る教師中心の授業ではなく、生徒中心の「脳動」的な授業（アクティブラーニング）を行うべく研究し研鑽を積んではいるが、未だ満足できないという向上心溢れる教員が多いことを物語っていると考えられる。

深い学びを促進するために導入されている電子黒板やPCなど、充実したICT環境を活用し、授



業内容の工夫に取り組んでいるかという問いに対しても、教員は1が15.8%（保護者44.3%）、2が71.1%（同44.1%）、3が13.2%（同7.6%）、4が0%（同4.0%）であった。ここでも教員のやや控えめな自己評価が見られる。本校には積極的にICT機器を使う教員が多く、その利点を最大限活用している授業を見ることがある。一方で、アナログですむ内容を敢えてデジタル化している場面も見かける。生徒一人ひとりにiPadを持たせている以上、極力使わなければならないと考えるのは当然だが、アナログとデジタルの棲み分けについて今後更に研究を進める必要がある。

模擬試験後の面談等によって、自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っているかという問いに対しては、1と回答した中等部生が13.7%、高等部生が17.1%、教員が15.8%、2と回答した中等部生が40.7%、高等部生が48.4%、教員が68.4%、3と回答した中等部生が32.2%、高等部生が27.9%、教員が13.2%、4と回答した中等部生が13.4%、高等部生が6.5%、教員が2.6%であった。本校で実施している学力推移調査はきめ細やかなデータが送られてくるので、個人面談での更なる活用が必要である。テストは現時点での学力を測る（総括的評価）と同時に、不足している部分をどう補うかを検討する（形成的評価）資料となり得るので、後者の機能を高め、1の割合を増やしていきたい。

学力不足生徒へのフォローのための補習授業や個人指導に対しては、1と回答した中等部生が10.0%、高等部生が8.8%、教員が5.1%、保護者が11.2%、2と回答した中等部生が33.0%、高等部生が34.2%、教員が38.5%、保護者が34.9%、3と回答した中等部生が33.3%、高等部生が37.2%、教員が46.2%、保護者が35.1%、4と回答した中等部生が23.4%、高等部生が19.8%、教員が7.7%、保護者が17.8%であった。教員の中には学力向上のための補習や学習会を実施したいと考えている者が少なくない一方で、補習の効果についての懐疑的な考え方があり、一斉授業型の補習では成果が期待できないということである。確かに生徒の弱点を補ったり質問に答えたり、個別に支援するスタイルで行うと実効があるが、授業の延長上にあるような補習は生徒の学習に向けた動機付けが難しい面がある。また、働き方改革が提唱される昨今、学力向上のために身を粉にして働いてきた教員の熱意を押さえないといけないという状況も生まれてこよう。補習と適正労働時間という相反する要素の間で、どう折り合いをつけるかが今後の課題である。

学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っているかという項目に対する教員の回答は1が20.5%、2が69.2%、3が7.7%、4が0%と、かなり評価が高かった。これに対して「学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思えますか」という問いに対する保護者の回答は、1が21.9%、2が42.6%、3が25.8%、4が9.3%と、教員より評価が低かった。この項目は学習のみならず、学校生活全般に関する連絡や懇談を含むと受け取れるので、次年度は「お子様の学習状況の説明や家庭学習などに関して」などの文言を付け加えたい。

#### (4) 徳育（生活指導）

社会規範の理解とモラルの醸成に関しては、1が教員2.6%、中等部生16.5%、高等部生14.2%、保護者25.9%、2が教員56.4%、中等部生45.9%、高等部生46.4%、保護者51.4%、3が教員33.3%、中等部生25.4%、高等部生28.4%、保護者15.2%、4が教員7.7%、中等部生12.0%、高等部生11.0%、保護者6.9%であった。生徒の将来を見据えて厳しく生活指導をする教員は当然評価が辛めになるが、保護者の評価がかなり高いことが目立つ。登下校の態度、車中での態度、SNS上でのマナー、相手に対する敬意、挨拶、礼儀作法など、まだまだ改善しなければならない点があ

る。

いじめ事象への対応は、1が教員 30.8%、中等部生 28.2%、高等部生 21.8%、保護者 24.2%、2が教員 69.2%、中等部生 36.2%、高等部生 45.5%、保護者 52.3%、3が教員 0%、中等部生 19.4%、高等部生 22.1%、保護者 16.3%、4が教員 0%、中等部生 16.0%、高等部生 10.4%、保護者 6.4%であった。肯定的な評価が教員は10割、生徒は7割弱、保護者は約8割という数字が出たことは、大人が思ういじめ事象への対応や予防が生徒にとって必ずしも納得や満足が得られていない可能性を示唆しているかもしれない。

他者の人権を尊重する教育が十分に行われているかという問いに対しては、1が教員 15.4%、中等部生 20.2%、高等部生 14.0%、保護者 20.0%、2が教員 69.2%、中等部生 42.2%、高等部生 48.4%、保護者 54.4%、3が教員 15.4%、中等部生 23.6%、高等部生 28.4%、保護者 18.6%、4が教員 0%、中等部生 14.0%、高等部生 9.2%、保護者 6.1%であった。これも生徒の評価が最も低い。差別的な言動とは知らずにやってしまったことで相手が傷ついた時など、生徒は事前に教育してほしかったと訴えることがあるので、学級担任を中心として更に人権教育を充実させる必要がある。

ボランティア活動に関しては、「授業や学級会活動などを通して地域・社会の現状を知らせ、自主的な社会貢献を促しているか」という設問に対して1をつけた教員が0%で、2をつけた教員も53.8%にとどまった。保護者の目から見ても、子女の日常的な言動の中に、社会や地域、他者に対する貢献の意識が見られるようになったと思われる方が59.2%（1が15.5%、2が43.7%）にとどまったので、来年度は改善したい点である。

生徒の学校生活や家庭生活について保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っているかという項目では、教員の肯定的な評価が82.1%、保護者の64.9%と若干差があった。保護者は子女の学校生活に関して更なる情報を求めていることが分かる。

## (5) 体育

基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導に関しては、1が教員 2.6%、中等部生 26.8%、高等部生 14.6%、保護者 19.4%、2が教員 79.5%、中等部生 42.2%、高等部生 47.5%、保護者 55.8%、3が教員 17.9%、中等部生 22.5%、高等部生 28.8%、保護者 19.2%、4が教員 0%、中等部生 8.5%、高等部生 9.0%、保護者 4.6%であった。教員の2の評価が多く、1の評価が極端に少ないのは、この項目については注力しているものの、基本的な生活習慣などを更に強化し、秩序と緊張感のある授業をしなければ更なる学力向上が望めないという危機感があると推察される。

## (6) 学校行事

学校行事は、時間の流れとともにやってきて、一つずつこなせばよいというものではなく、生徒が各学校行事の意義や目的を理解しており、行事を経るごとに生徒が成長していくための指導がなされなければならない。その意味で、教員の肯定的な評価92.3%に比して、中等部生の69.3%、高等部生の75.5%、保護者の81.5%が低いことは次年度の課題となる。本校の行事は生徒が中心となった素晴らしいものが多いが、全体として充実した内容であることを評価する教員と、まだまだ人任せで自分はあまり貢献していないという生徒の意識の違いが感じられる。



## (7) 国際理解教育

本校の教育理念の4本柱の1つである国際理解力に関しては、肯定的な評価が教員は84.6%、中等部生は69.3%、高等部生が75.7%、保護者が86.8%であった。しかし、「そう思う」という1の評価をした教員は20.5%、中等部生は23.4%、高等部生は23.2%にとどまり、4分の1弱に過ぎない。国際理解力とは、相手を理解するよう努め、自らの立場や考え、自国の文化などを論理的にかつ適切な言葉で発信していく力であり、その力はクラスでも職場でも求められるものである。生徒は適切な言葉で発信していく力という部分を英語力と捉えて消極的な評価をしたとも推察されるので、英語力の向上も含めて、今後も国際理解教育に注力していかなければならない。

## (8) 学校間連携

高大あるいは中大、中高の学校間の教育連携が積極的に行われているかという問いに対しては、1が教員20.5%、中等部生20.2%、高等部生22.7%、保護者29.8%、2が教員71.8%、中等部生42.7%、高等部生48.6%、保護者45.6%、3が教員5.1%、中等部生22.2%、高等部生20.3%、保護者18.1%、4が教員2.6%、中等部生14.5%、高等部生8.3%、保護者4.8%であった。教員の肯定的な評価は高いが、1が20.5%にとどまっており、中等部と高等部が職員室を共有している上、中等部と高等部の授業を兼担している教員も多く、そのメリットをもっと活かすべきという考えが反映されているのではないかと思われる。

初等部との連携は大きな課題であるが、1が教員0%、保護者14.7%、2が教員25.6%、保護者43.0%、3が教員59.0%、保護者27.4%、4が教員15.4%、保護者12.8%であり、教員の74.4%が初中高連携ができていないと考えている一方で、保護者の57.7%が連携ができていと回答していた。高等部の教員は直接初等部の教員と関わるのが少なく、初中連携会議などにも参加する機会がない。初中高が同じ建物に居ながら合同で動く行事等がなく、授業公開や連携会議などの機会に初等部の授業を見たり初等部の教員と情報交換をしたりする機会に恵まれなかった教員は、どうしても評価が低くなる。一方で、中高の新管理職が初等部の保護者に初中高連携を積極的に進めることを説明したことや、中等部1年担当教員が初等部での指導を参考にして生徒を手厚く指導したことなどが保護者の間で広まり、高く評価された可能性がある。今まで初中高連携が不十分だと考えていた保護者が、新しい体制で新しい連携を模索しているのに期待して高く評価したとも考えられるので、次年度は真価が問われるであろう。2月3日に開催された初等部の研究大会では、中1～3の各1クラスで「考える科」の授業を公開した。初等部のミューズ学習から中等部の考える科の授業が、9年間連続したものだと知っていただく好機会だったので、今後もそういう情報発信をしていかなければならない。

## (9) 相談体制

生徒・保護者の悩みに対して、教員による相談体制やカウンセリング体制が学校全体として整っているかという問いに対しては、1が教員33.3%、中等部生17.4%、高等部生15.3%、保護者21.4%、2が教員53.8%、中等部生36.2%、高等部生47.7%、保護者48.3%、3が教員5.1%、中等部生23.9%、高等部生24.3%、保護者20.0%、4が教員7.7%、中等部生21.9%、高等部生11.9%、保護者8.3%であった。肯定的な回答は、教員87.1%、保護者69.7%、高等部生63.0%、中等部生53.6%という順に高い。つまり、生徒の悩みに対して教員は体制を整えて対応しているが、生徒は

それを十分に活用していなかったり、その対応に満足できていなかったりする可能性がある。

#### (10) 教員の研修活動

本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実しているかという問いに対して、教員は1と回答した者が20.5%、2が56.4%、3が20.5%、4が2.6%であった。校内研修は研究部やSGH推進部が数度行ったほか、校外での研修会に積極的に参加し、その報告書を丁寧にまとめて提出してきた教員も少なくなかった。

教員間で授業を見学し合あい、互いに切磋琢磨して授業力を向上させる取組をしているかという問いには、7.7%の教員が1と回答し、2は74.4%、3が12.8%、4が2.6%であった。研究部が相互授業見学の期間を設けて公開授業を積極的に促したが、時間割の関係でなかなか他の教員の授業を見に行く機会が持てなかった場合もあったので、次年度はその点を改善して更にその動きを活発化させたい。

一方、生徒は、工夫された授業や、おもしろい実験などが取り入れられていると思うかという問いに対して、中等部生の回答は1が32.2%、2が36.2%、3が16.5%、4が12.8%、高等部は1が19.1%、2が40.5%、3が26.4%、4が12.4%であった。保護者は、本校の教員が教材研究や指導力の向上に努めようとしていると思うかという問いに対して、1が21.0%、2が48.3%、3が19.5%、4が8.5%であった。中等部の7割、高等部の6割、保護者の7割が肯定的な回答をしているが、まだ十分とは言えない。教員の研修体制がいかに整っているかが、生徒や保護者の満足度に比例することがこの調査から分かった。

### 5 学校関係者評価委員会からの評価結果

#### (1) 自己評価の結果を受けて

##### ア 重点目標①：生徒の学力を向上させて各自の進路希望を実現させる（分かるようになる、できるようになる授業が展開される学校）

- ・家庭学習習慣の定着に関しては、学力調査の結果からも、公立学校でも全国的な課題となっている。スマホの利用時間増加への対応を含めて、家庭学習習慣の定着は難しい問題である。報告書でも述べられているように、授業が生徒にとって意味があり、現在の生活や今後の将来に繋がっていくと感じられると生徒の態度も変わってくると思われる。
- ・高等部でのキャリア教育の充実が取組計画として上げられているが、初等部・中等部からのキャリア教育の視点を持つことが必要であると考え。例えば、関西大学の学部説明会においても、中等部生が受けることにより、今授業で学習している内容が、今後にどのように繋がるかを認識でき、生徒の学習に対する意識も変わってくるのではないかと。
- ・これから、高等部の卒業生が社会の中でどのように活躍していくか。それによって、学校の評価も変わってくる。卒業生が社会に出て活躍するのまでには時間はかかるが、そのような視点を持って、取り組んで欲しい。

##### イ 重点目標②：考動力とチャレンジ精神にあふれ、人を思いやり、言葉を大切にせる生徒集団を育成する（笑顔と感動のある充実した学園生活を送れる学校）

- ・中等部生徒のICT委員の活動など、生徒が自ら企画・運営していることは非常に良い取組であると感じている。失敗することもあるが、生徒にとっては良い経験となり、人間的な成長

にも繋がる。

- ・子どもたちと先生方が一緒になって、議論しているいろいろなことを勉強していく中で、クラスが明るくなっていくということが一番重要になってくる。

#### ウ 重点目標③：生徒を理解し、適切な指導をすることで信頼関係を築く（教師と生徒が信頼関係で結ばれた学校）

- ・なぜ数学を勉強しなければならないのか、なぜ英語を勉強しなければならないのか、という生徒からの問いに対して、教員が教科に対する思いや意味を考え、どのように役立っているのかという視点を持って、生徒に伝えられるかが大切である。
- ・小学校ではクラス担任が全ての面倒を見ているが、中学校・高校では、授業担任とクラス担任が別になるので、授業で生徒に問題が発見されたときにクラス担任にきちんと情報共有されて、ケアできる体制があるのかということが重要になってくる。
- ・初等部保護者対象の情報交換会を新たに開催されるなど、初等部・中等部の連携について、新たな取組が進められていて、これからが楽しみである。

### (2) アンケート結果について

- ・生徒アンケートの質問項目 23 の「悩みが生じたときに、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談できる体制ができていると思いますか。」に対する回答で中等部の肯定的評価が 53.6%というの低いように感じる。各学年で評価結果にばらつきが見られることから、今後の改善方策にも述べられているように、特に教員との人間関係、信頼関係に基づく、関係を結んでいくことが大切ではないか。
- ・報告書の内容からも、初等部と中・高等部の連携が良くなっており、全体としては順調に進んでいると思われる。より高い目標を掲げられており、大変だと思うが、ぜひ頑張っていたきたい。

#### [学校関係者評価委員会委員名簿]

氏名	所属及び役職
沖田 厚志	高槻市中学校校長会 会長
長尾 忠浩	関西大学中等部・高等部教育後援会 会長
小澤 守	関西大学社会安全学部 教授 ※評価結果とりまとめ執筆者
田尻 悟郎	関西大学中等部・高等部 校長

## 6 校長の意見書

関西大学中等部・高等部

校長 田尻 悟郎

アンケート結果の各項目について、1、2の肯定的な評価を合わせれば70%、80%を超える項目もあるが、本来は1の「そう思う」の評価がその程度の数字にならないといけない。2の「どちらかと言えば」というのは限りなくフィフティ・フィフティに近い印象があり、積極的な肯定とは言えない。

保護者からは全体的に肯定的に捉えられているが、生徒たちは保護者よりも否定的な回答をしている。思春期にあり、大人を否定したり、大人から離れて独立しようしたりとする時期であること

を差し引いても、もっと生徒から肯定的な回答を引き出したい。そのためには、厳しくも教育的愛情に溢れた指導が求められる。本校の教員は理想とする教育に向かって努力を続けているが、時としてその理想が全面に立ちすぎてしまい、それを完全に理解できない生徒や、異なる理想を抱く生徒たちから否定的な回答をされているのかもしれない。

今後必要となってくるのは、不易と流行を見極め、生徒の数年先、数十年先を見越した指導を行うことと、それを納得させるための教員と生徒の相互理解だと思われる。2020年には新入試制度が開始され、指導要領の改訂に伴う教育内容の変化がもたらされる。今後どのように対応していくか暗中模索である中、本校ではすでにそこに向かってスタートを切っている。本校のあるべき姿、本校の担うべき役割などについて、盛んに議論している教員も少なくなく、進学実績と社会での実績の相関関係、伝統的価値観と新しい価値観などについて、様々な意見を聞くにつけ、本校の将来に明るい希望を抱いている。今時の生徒を理解し、導き、尊重して任せ、適宜アドバイスをして軌道修正させるという、大人による大人の対応が子どもたちとの相互理解、そして満足感と実績の向上につながるのではないかと考える教員が少なくないことは、本校に新しいうねりがもたらされる兆しであると思う。これからもその工夫とチャレンジ精神、行動力を応援していきたい。

## 7. アンケート結果

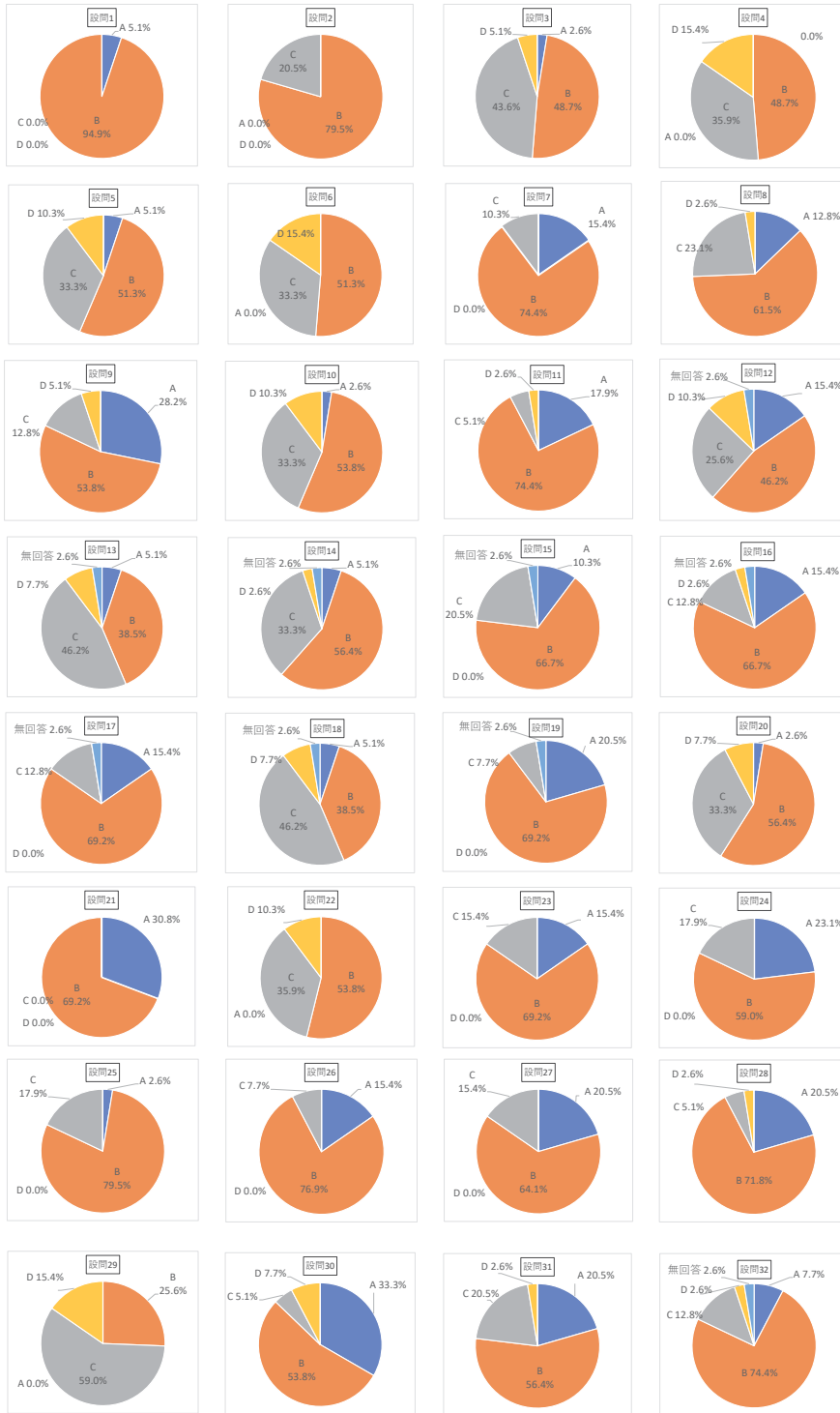
2017年度 関西大学中等部高等部学校評価アンケート質問項目（教師用／保護者用／生徒用）

2017年度 学校評価アンケート 集計

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14	設問15	設問16	設問17	設問18	設問19	設問20	設問21	設問22	設問23	設問24	設問25	設問26	設問27	設問28	設問29	設問30	設問31	設問32
A	2	0	1	0	2	0	6	5	11	1	7	6	2	2	4	6	6	2	8	1	12	0	6	9	1	6	8	8	0	13	8	3
B	37	31	19	19	20	20	29	24	21	21	29	18	15	22	26	26	27	15	27	22	27	21	27	23	31	30	25	28	10	21	22	29
C	0	8	17	14	13	13	4	9	5	13	2	10	18	13	8	5	5	18	3	13	0	14	6	7	7	3	6	2	23	2	8	5
D	0	0	2	6	4	6	0	1	2	4	1	4	3	1	0	1	0	3	0	3	0	4	0	0	0	0	0	1	6	3	1	1
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

凡例：A-そう思う。B-どちらかといえばそう思う。C-どちらかといえばそう思わない。D-そう思わない。

(1/1)



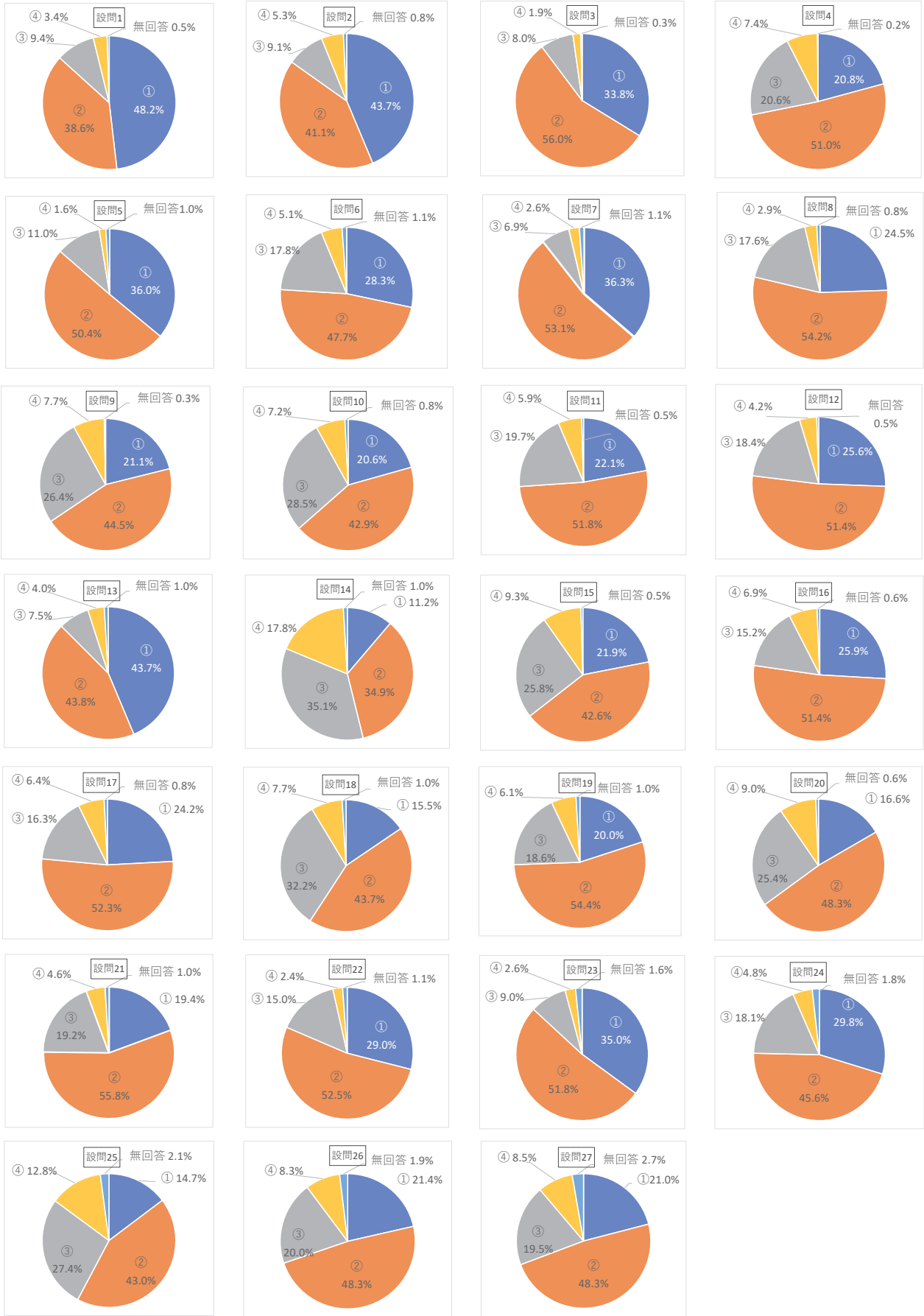
- 設問1 本校の生徒は充実した学校生活を満喫している。
- 設問2 本校に入学生した生徒・保護者の満足度は高い。
- 設問3 進学の精神に基づく教育方針・教育目標は、教職員・保護者などの関係者によく浸透している。
- 設問4 職員会議や学年会議、教科会議などが効果よく機能的に運営されている。
- 設問5 教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。
- 設問6 管理職と教員との間で相互理解と信頼関係を築いている。
- 設問7 教員と事務職員とで相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。
- 設問8 ウェブや学級通信等を利用して、本校の学校生活に関するまめ情報提供を心がけている。
- 設問9 警察や消防と連携し、避難訓練や安全確保活動などによる安全対策を講じている。
- 設問10 事故、事件、災害に対する対応が確に行われる組織になっている。
- 設問11 生徒や教職員の個人情報管理が適切に行われている。
- 設問12 本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取り組みや、地域人材の活用を行っている。
- 設問13 学力向上のための組織的な取組を行っている。
- 設問14 生徒が人生のロードマップを描き、逆算して大学や学部を選び、主体的に進路に向けた準備をするための組織的な指導がなされている。
- 設問15 生徒が主体的に対話的な深い学びを行い、思考力を高めるための授業作りを組織的に行っている。
- 設問16 観察記録等を活用して学習状況を計画的に把握し、学生集団・個人への効果的な指導体制がとられている。
- 設問17 電子カルテの中心を充実したICT環境を活用し、授業内でのICTを取り組んでいる。
- 設問18 学力不足生徒へのフォローのための補習授業や個人指導を行っている。
- 設問19 学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との連携や連絡を緊密に行っている。
- 設問20 生徒に学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組を行っている。
- 設問21 いじめの実態把握に努め、生徒が発する危険信号等を見逃さないようにして早期発見に努める体制が整い、学校組織として共有できている。
- 設問22 授業や学級活動などを通して地域・社会の現状を知らせ、自主的な社会貢献を促している。
- 設問23 他者の人権を尊重する教育が計画的に行われている。
- 設問24 生徒の学校生活や家庭生活について保護者との懸念や連絡を密に行い、相互理解を図っている。
- 設問25 基本的な生活習慣や健康な身体づくり、食生活力づくりの指導を行っている。
- 設問26 本学校行事の意義や目的を生徒が理解しており、行事を経るごとに生徒が成長していくための指導がなされている。
- 設問27 異文化を理解し受け入れ、自文化を論理的に適切な言葉で発信していくための教育が充実している。
- 設問28 高大あるいは中大、中高の学校間の教育連携が積極的に行われている。
- 設問29 初等部の授業を見学したり、自らの授業をみてもらったり、初等部の教員と話し合ったりして、初・中高連携を図っている。
- 設問30 生徒・保護者の悩みに対して、教員による相談体制やカウンセリング体制が学校全体として整っている。
- 設問31 本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している。
- 設問32 教員間で授業を互いに学び合い、互いに切磋琢磨して授業力向上させる取り組みをしている。

保護者全体

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14	設問15	設問16	設問17	設問18	設問19	設問20	設問21	設問22	設問23	設問24	設問25	設問26	設問27
①	301	273	211	130	225	177	227	153	132	129	138	160	273	70	137	162	151	97	125	104	121	181	219	186	92	134	131
②	241	257	350	319	315	298	332	339	278	268	324	321	274	218	266	321	327	273	340	302	349	328	324	285	269	302	302
③	59	57	50	129	69	111	43	110	165	178	123	115	47	219	161	95	102	201	116	159	120	94	56	113	171	125	122
④	21	33	12	46	10	32	16	18	48	45	37	26	25	111	58	43	40	48	38	56	29	15	16	30	80	52	53
無回答	3	5	2	1	6	7	7	5	2	5	3	3	6	6	3	4	5	6	6	4	6	7	10	11	13	12	17

(人数)

凡例：①…そう思う。②…どちらかといえばそう思う。③…どちらかといえばそう思わない。④…そう思わない。



設問1 ご子女は、生き生きとした学校生活を送っていると思われますか。  
 設問2 保護者として、この学校に入学させてよかったと思われますか。  
 設問3 本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。  
 設問4 ウェブや学校からの連絡、学校通信等によって、学校の様子がよくわかり、指導の意図が伝わっていますか。

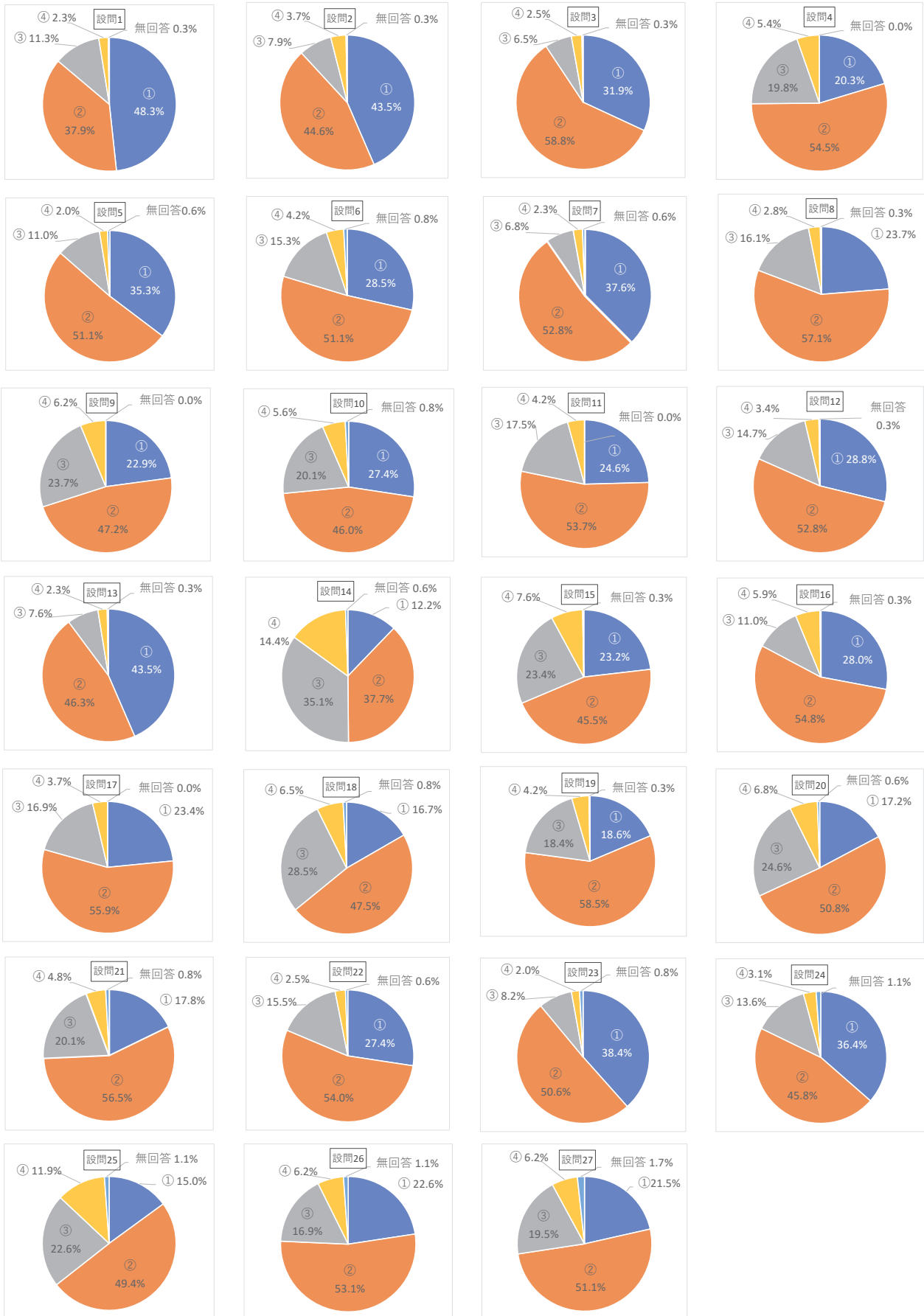


- 設問5 避難訓練や安全対策など積極的な対策を講じていると思われませんか。
- 設問6 学校は、事故、事件、災害に対する対応が的確な組織になっていると思われませんか。
- 設問7 学校は個人情報的重要性を良く理解し、その保護に努めていると思われませんか。
- 設問8 本校の教育活動に対する地域に理解促進のための取り組みや、地域人材の活用が行われていると思われませんか。
- 設問9 本校は学力向上のために組織的な取り組みを行っていると思われませんか。
- 設問10 お子様が生徒のロードマップを描き、逆算して大学や学部を選び、主体的に進路に向けた準備をするための指導がなされていると思われませんか。
- 設問11 生徒が主体的に対話的な深い学びを行い、思考力を高めるための授業づくりを行っていると思われませんか。
- 設問12 学校は生徒個々の学力とその推移を的確に把握していると思われませんか。
- 設問13 学校は電子黒板やPCなど充実したICT環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいると思われませんか。
- 設問14 習熟度のおくれた生徒へのフォローや補習授業の取組が十分に行われていると思われませんか。
- 設問15 学校からの連絡や懇談は親密に行われていると思われませんか。
- 設問16 学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組が行われていると思われませんか。
- 設問17 いじめを許さない学校・学級づくりに積極的に取り組んでいると思われませんか。
- 設問18 お子様の日常的な言動の中に、社会や地域、他者に対する貢献の意識が見られるようになったと思われませんか。
- 設問19 本校では、他者の人権を尊重する教育が十分に行われていると思われませんか。
- 設問20 本校は、生徒の学校生活や家庭生活について保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っていると思われませんか。
- 設問21 基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思われませんか。
- 設問22 各学校行事の意義や目的を生徒に理解させ、行事を経るごとに生徒が成長していくための指導がなされていると思われませんか。
- 設問23 異文化を理解し受け入れ、自分化を論理的に適切な言葉で発信していくための教育が充実していると思われませんか。
- 設問24 高大（あるいは中大、中高の学校同士）の教育連携が積極的に行われていると思われませんか。
- 設問25 初等部と中等部・高等部との連携が十分に行われていると思われませんか。
- 設問26 子供らに何らかの問題が生じた時、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思われませんか。
- 設問27 本校の教員は、教材研究や指導力の向上に努めようとしていると思われませんか。

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14	設問15	設問16	設問17	設問18	設問19	設問20	設問21	設問22	設問23	設問24	設問25	設問26	設問27
①	171	154	113	72	125	101	133	84	81	97	87	102	154	43	82	99	83	59	66	61	63	97	136	129	53	80	76
②	134	158	208	193	181	181	187	202	167	163	190	187	164	133	161	194	198	168	207	180	200	191	179	162	175	188	181
③	40	28	23	70	39	54	24	57	84	71	62	52	27	124	83	39	60	101	65	87	71	55	29	48	80	60	69
④	8	13	9	19	7	15	8	10	22	20	15	12	8	51	27	21	13	23	15	24	17	9	7	11	42	22	22
無回答	1	1	1	0	2	3	2	1	0	3	0	1	1	2	1	1	0	3	1	2	3	2	3	4	4	4	6

(人数)

凡例：①…そう思う。②…どちらかといえばそう思う。③…どちらかといえばそう思わない。④…そう思わない。



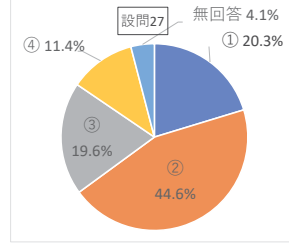
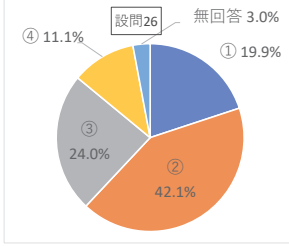
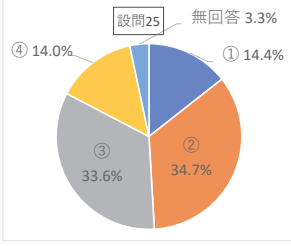
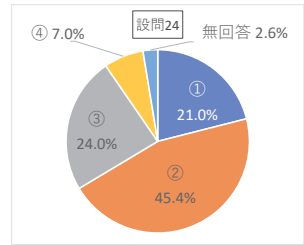
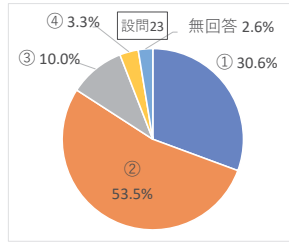
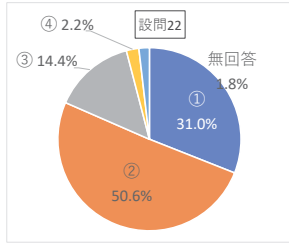
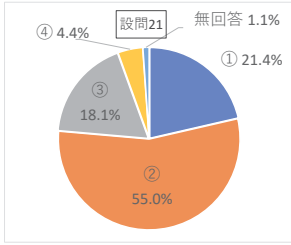
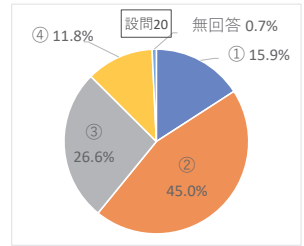
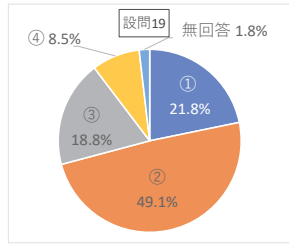
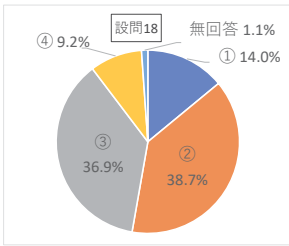
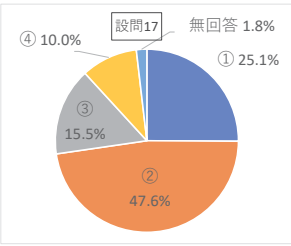
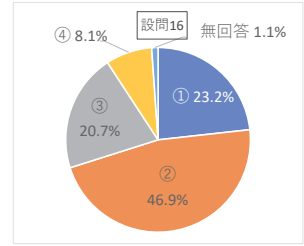
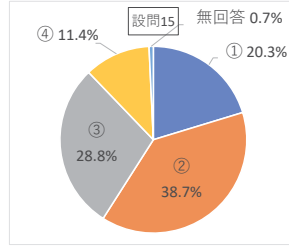
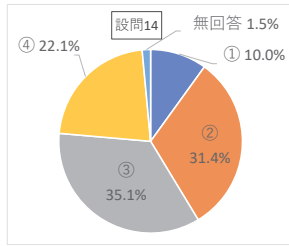
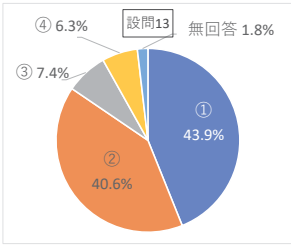
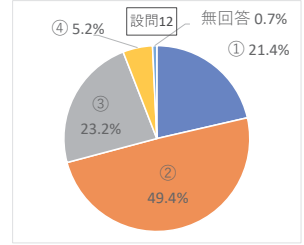
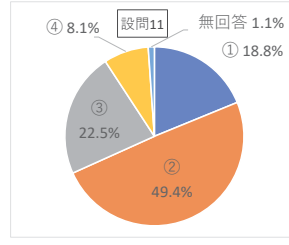
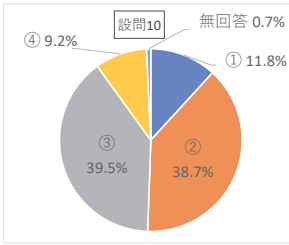
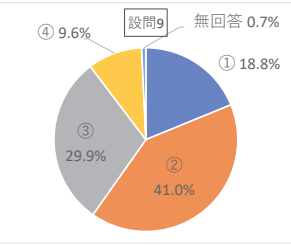
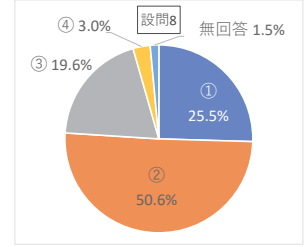
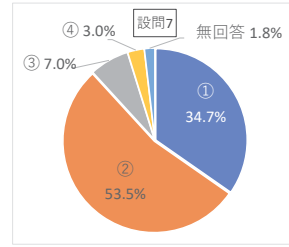
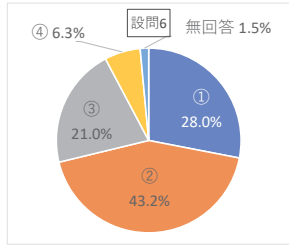
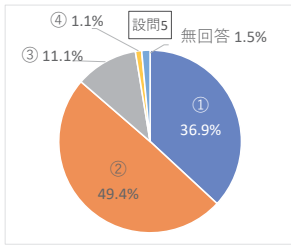
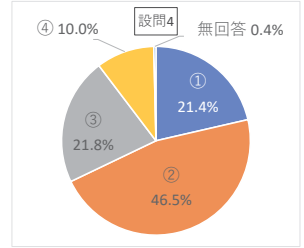
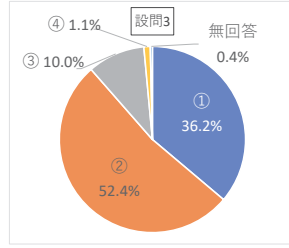
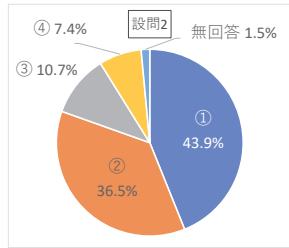
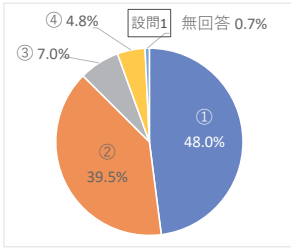
設問1 ご子女は、生き生きとした学校生活を送っていると思われますか。  
 設問2 保護者として、この学校に入学させてよかったと思われますか。  
 設問3 本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。  
 設問4 ウェブや学校からの連絡、学校通信等によって、学校の様子がよくわかり、指導の意図が伝わっていますか。

- 設問5 避難訓練や安全対策など積極的な対策を講じていると思われませんか。
- 設問6 学校は、事故、事件、災害に対する対応が的確な組織になっていると思われませんか。
- 設問7 学校は個人情報的重要性を良く理解し、その保護に努めていると思われませんか。
- 設問8 本校の教育活動に対する地域に理解促進のための取り組みや、地域人材の活用が行われていると思われませんか。
- 設問9 本校は学力向上のために組織的な取り組みを行っていると思われませんか。
- 設問10 お子様が生徒のロードマップを描き、逆算して大学や学部を選び、主体的に進路に向けた準備をするための指導がなされていると思われませんか。
- 設問11 生徒が主体的に対話的な深い学びを行い、思考力を高めるための授業づくりを行っていると思われませんか。
- 設問12 学校は生徒個々の学力とその推移を的確に把握していると思われませんか。
- 設問13 学校は電子黒板やPCなど充実したICT環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいると思われませんか。
- 設問14 習熟度のおくれた生徒へのフォローや補習授業の取組が十分に行われていると思われませんか。
- 設問15 学校からの連絡や懇談は親密に行われていると思われませんか。
- 設問16 学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組が行われていると思われませんか。
- 設問17 いじめを許さない学校・学級づくりに積極的に取り組んでいると思われませんか。
- 設問18 お子様の日常的な言動の中に、社会や地域、他者に対する貢献の意識が見られるようになったと思われませんか。
- 設問19 本校では、他者の人権を尊重する教育が十分に行われていると思われませんか。
- 設問20 本校は、生徒の学校生活や家庭生活について保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っていると思われませんか。
- 設問21 基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思われませんか。
- 設問22 各学校行事の意義や目的を生徒に理解させ、行事を経るごとに生徒が成長していくための指導がなされていると思われませんか。
- 設問23 異文化を理解し受け入れ、自分化を論理的に適切な言葉で発信していくための教育が充実していると思われませんか。
- 設問24 高大（あるいは中大、中高の学校同士）の教育連携が積極的に行われていると思われませんか。
- 設問25 初等部と中等部・高等部との連携が十分に行われていると思われませんか。
- 設問26 子供らに何らかの問題が生じた時、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思われませんか。
- 設問27 本校の教員は、教材研究や指導力の向上に努めようとしていると思われませんか。

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14	設問15	設問16	設問17	設問18	設問19	設問20	設問21	設問22	設問23	設問24	設問25	設問26	設問27
①	130	119	98	58	100	76	94	69	51	32	51	58	119	27	55	63	68	38	59	43	58	84	83	57	39	54	55
②	107	99	142	126	134	117	145	137	111	105	134	134	110	85	105	127	129	105	133	122	149	137	145	123	94	114	121
③	19	29	27	59	30	57	19	53	81	107	61	63	20	95	78	56	42	100	51	72	49	39	27	65	91	65	53
④	13	20	3	27	3	17	8	8	26	25	22	14	17	60	31	22	27	25	23	32	12	6	9	19	38	30	31
無回答	2	4	1	1	4	4	5	4	2	2	3	2	5	4	2	3	5	3	5	2	3	5	7	7	9	8	11

(人数)

凡例：①…そう思う。②…どちらかといえばそう思う。③…どちらかといえばそう思わない。④…そう思わない。



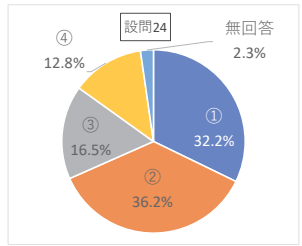
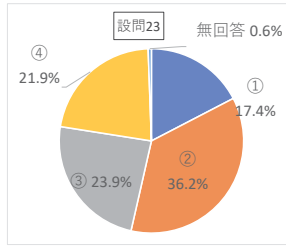
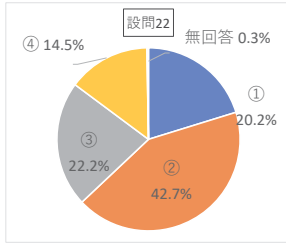
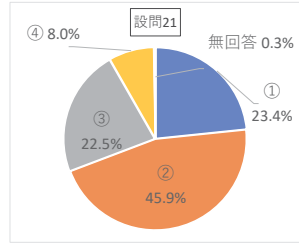
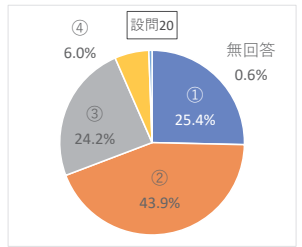
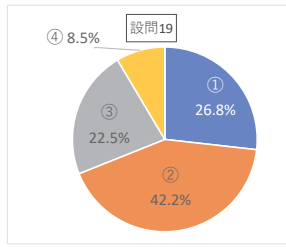
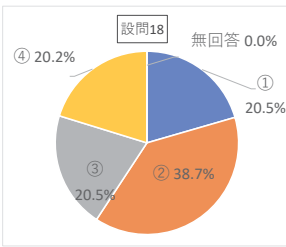
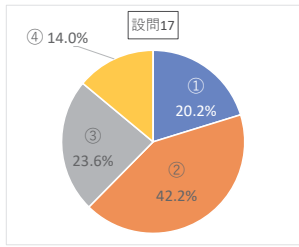
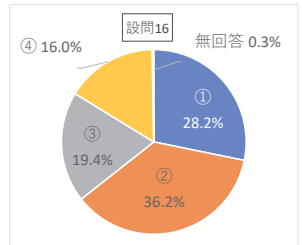
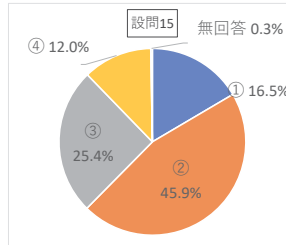
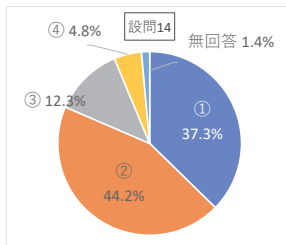
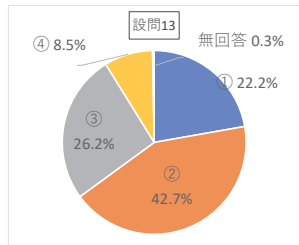
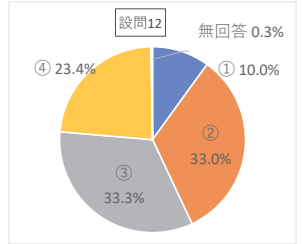
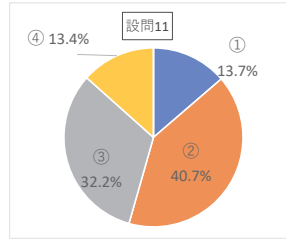
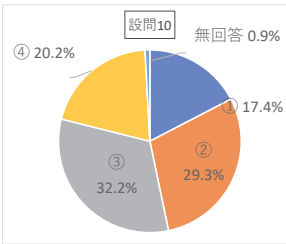
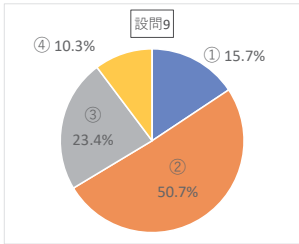
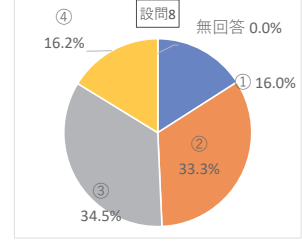
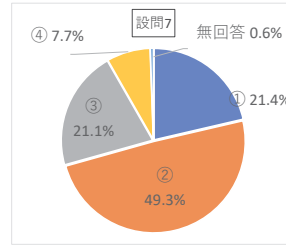
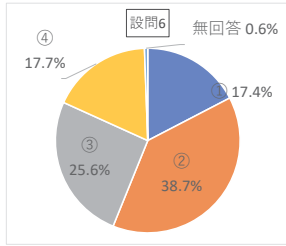
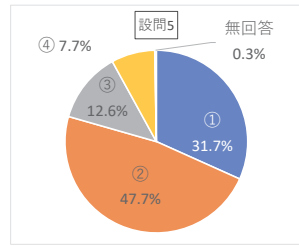
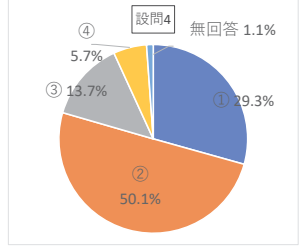
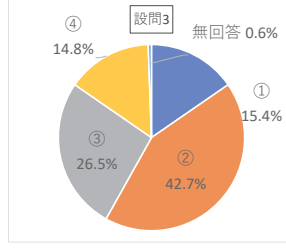
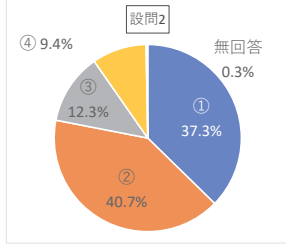
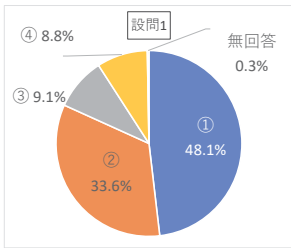
- 設問1 ご子女は、生き生きとした学校生活を送っていると思われませんか。
- 設問2 保護者として、この学校に入学させてよかったと思われませんか。
- 設問3 本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。
- 設問4 ウェブや学校からの連絡、学校通信等によって、学校の様子がよくわかり、指導の意図が伝わっていますか。
- 設問5 避難訓練や安全対策など積極的な対策を講じていると思われませんか。
- 設問6 学校は、事故、事件、災害に対する対応が的確な組織になっていると思われませんか。
- 設問7 学校は個人情報的重要性を良く理解し、その保護に努めていると思われませんか。
- 設問8 本校の教育活動に対する地域に理解促進のための取り組みや、地域人材の活用が行われていると思われませんか。
- 設問9 本校は学力向上のために組織的な取り組みを行っていると思われませんか。
- 設問10 お子様が生徒のロードマップを描き、逆算して大学や学部を選び、主体的に進路に向けた準備をするための指導がなされていると思われませんか。
- 設問11 生徒が主体的で対話的な深い学びを行い、思考力を高めるための授業づくりを行っていると思われませんか。
- 設問12 学校は生徒個々の学力とその推移を的確に把握していると思われませんか。
- 設問13 学校は電子黒板やPCなど充実したICT環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいると思われませんか。
- 設問14 習熟度のおくれた生徒へのフォローや補習授業の取組が十分に行われていると思われませんか。
- 設問15 学校からの連絡や懇談は親密に行われていると思われませんか。
- 設問16 学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組が行われていると思われませんか。
- 設問17 いじめを許さない学校・学級づくりに積極的に取り組んでいると思われませんか。
- 設問18 お子様の日常的な言動の中に、社会や地域、他者に対する貢献の意識が見られるようになったと思われませんか。
- 設問19 本校では、他者の人権を尊重する教育が十分に行われていると思われませんか。
- 設問20 本校は、生徒の学校生活や家庭生活について保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っていると思われませんか。
- 設問21 基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思われませんか。
- 設問22 各学校行事の意義や目的を生徒に理解させ、行事を経ることに生徒が成長していくための指導がなされていると思われませんか。
- 設問23 異文化を理解し受け入れ、自分化を論理的に適切な言葉で発信していくための教育が充実していると思われませんか。
- 設問24 高大（あるいは中大、中高の学校同士）の教育連携が積極的に行われていると思われませんか。
- 設問25 初等部と中等部・高等部との連携が十分に行われていると思われませんか。
- 設問26 子供らに何らかの問題が生じた時、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思われませんか。
- 設問27 本校の教員は、教材研究や指導力の向上に努めようとしていると思われませんか。

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14	設問15	設問16	設問17	設問18	設問19	設問20	設問21	設問22	設問23	設問24
①	169	131	54	103	111	61	75	56	55	61	48	35	78	131	58	99	71	72	94	89	82	71	61	113
②	118	143	150	176	167	136	173	117	178	103	143	116	150	155	161	127	148	136	148	154	161	150	127	127
③	32	43	93	48	44	90	74	121	82	113	113	117	92	43	89	68	83	72	79	85	79	78	84	58
④	31	33	52	20	27	62	27	57	36	71	47	82	30	17	42	56	49	71	30	21	28	51	77	45
無回答	1	1	2	4	1	2	2	0	0	3	0	1	1	5	1	1	0	0	0	2	1	1	2	8

生徒全体

(人数)

凡例：①…そう思う。②…どちらかといえばそう思う。③…どちらかといえばそう思わない。④…そう思わない。



- 設問1 学校生活は楽しいと感じていますか。
- 設問2 この学校に入学してよかったと思いますか。
- 設問3 本校の教育方針を理解していますか。
- 設問4 登下校時を中心に、関大中高等部生としての自覚を持って行動していますか。
- 設問5 事故、事件、災害が発生したとき、どのように行動すればよいのか、指示をうけていますか。
- 設問6 先生方は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていると思いますか。
- 設問7 「情報」「総合」等の授業を通じて、情報に関する倫理やその保護について理解していますか。
- 設問8 関西大学や他の大学に関する情報が増え、大学進学へのモチベーションが上がってきましたか。



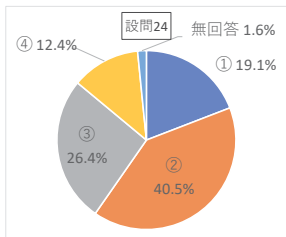
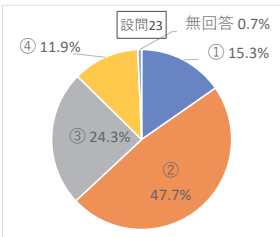
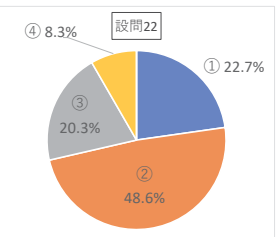
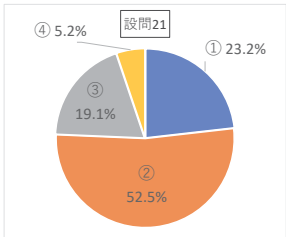
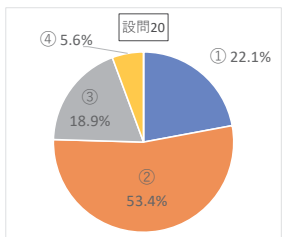
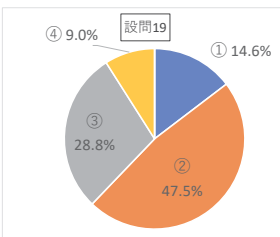
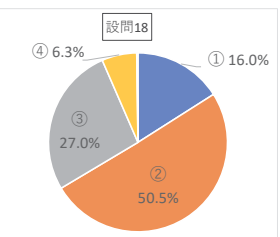
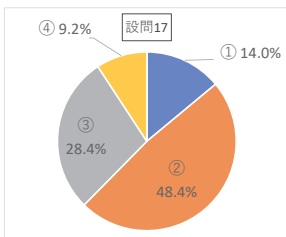
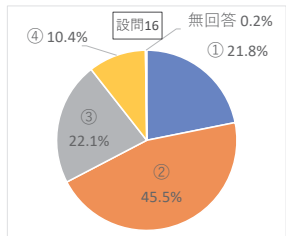
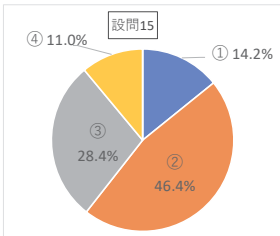
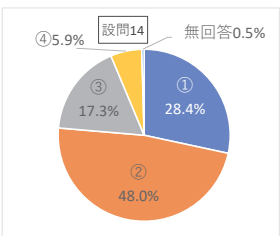
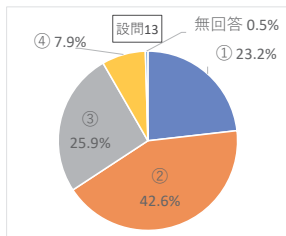
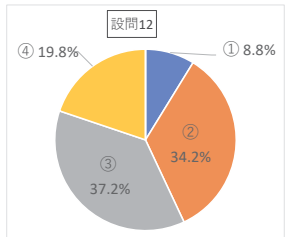
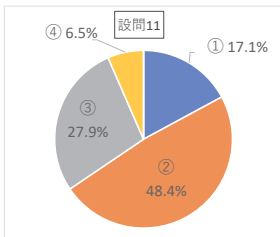
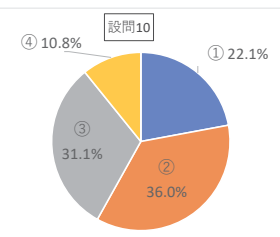
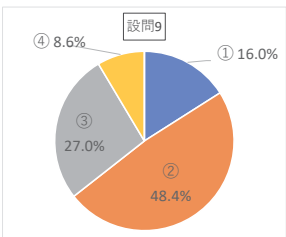
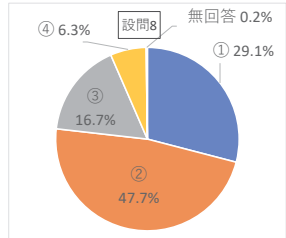
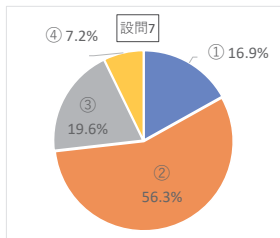
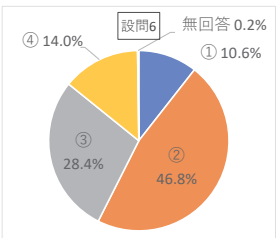
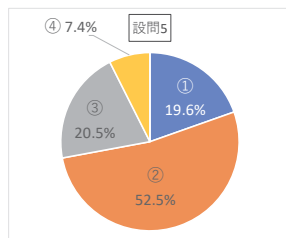
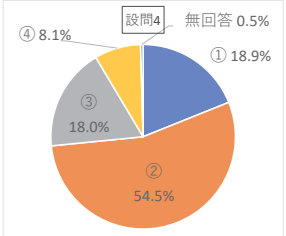
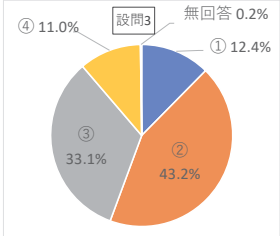
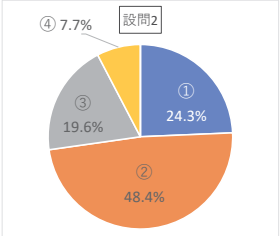
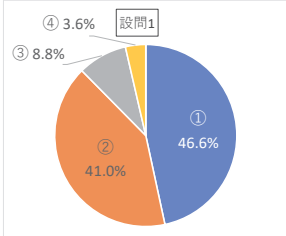
- 設問9 授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか。
- 設問10 将来やりたいことが見つかり、それに向けて逆算をして準備を始めていますか。
- 設問11 模擬試験後の面談等によって、自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っていますか。
- 設問12 成績が低迷した場合、補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。
- 設問13 課題や提出物にまじめに取り組み、家庭学習習慣は身につけていると思いますか。
- 設問14 自分の学習状況を保護者も把握していると思いますか。
- 設問15 生徒としてのマナーやモラル向上のための指導によって、規範意識が昨年より高まったと思いますか。
- 設問16 いじめを許さない指導が日常的におこなわれていると思いますか。
- 設問17 他者への貢献や人権意識を高める指導が日常的に行われていると思いますか。
- 設問18 先生とのコミュニケーションが十分にたれ、先生の指導の意図を理解していますか。
- 設問19 基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの仕方を学びましたか。
- 設問20 各学校行事の意義や目的を理解しており、行事を経験する中で自分の成長を感じますか。
- 設問21 異文化を理解し受け入れ、自分化を論理的に適切な言葉で発信していく力がついてきましたか。
- 設問22 高大（あるいは中大、中高の学校同士）の教育連携があると思いますか。
- 設問23 悩みが生じたときに、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談できる体制ができていると思いますか。
- 設問24 工夫された授業や、おもしろい実験などが取り入れられていると思いますか。

高校生全体

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14	設問15	設問16	設問17	設問18	設問19	設問20	設問21	設問22	設問23	設問24
①	207	108	55	84	87	47	75	129	71	98	76	39	103	126	63	97	62	71	65	98	103	101	68	85
②	182	215	192	242	233	208	250	212	215	160	215	152	189	213	206	202	215	224	211	237	233	216	212	180
③	39	87	147	80	91	126	87	74	120	138	124	165	115	77	126	98	126	120	128	84	85	90	108	117
④	16	34	49	36	33	62	32	28	38	48	29	88	35	26	49	46	41	28	40	25	23	37	53	55
無回答	0	0	1	2	0	1	0	1	0	0	0	0	2	2	0	1	0	1	0	0	0	0	3	7

(人数)

凡例：①…そう思う。②…どちらかといえばそう思う。③…どちらかといえばそう思わない。④…そう思わない。



- 設問1 学校生活は楽しいと感じていますか。
- 設問2 この学校に入学してよかったと思いますか。
- 設問3 本校の教育方針を理解していますか。
- 設問4 登下校時を中心に、関大中高等部生としての自覚を持って行動していますか。
- 設問5 事故、事件、災害が発生したとき、どのように行動すればよいのか、指示をうけていますか。
- 設問6 先生方は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていると思いますか。
- 設問7 「情報」「総合」等の授業を通じて、情報に関する倫理やその保護について理解していますか。
- 設問8 関西大学やその他の大学に関する情報が増え、大学進学へのモチベーションが上がってきましたか。
- 設問9 授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか。
- 設問10 将来やりたいことが見つかり、それに向けて逆算をして準備を始めていますか。

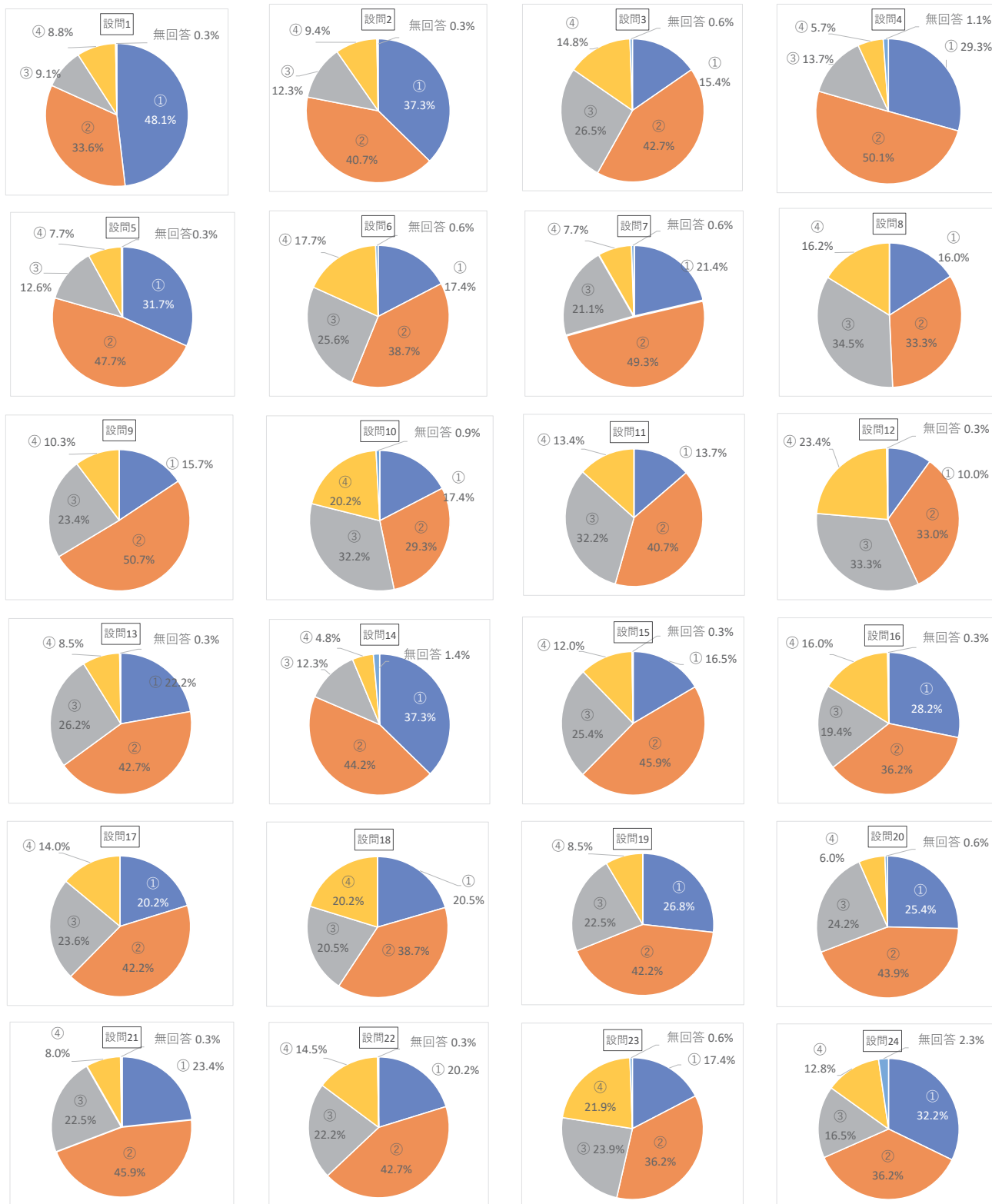
- 設問11 模擬試験後の面談等によって、自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っていますか。
- 設問12 成績が低迷した場合、補習授業で適切なフォローをもらえる仕組みがあると感じていますか。
- 設問13 課題や提出物にまじめに取り組み、家庭学習習慣は身につけていると思いますか。
- 設問14 自分の学習状況を保護者も把握していると思いますか。
- 設問15 生徒としてのマナーやモラル向上のための指導によって、規範意識が昨年より高まったと思いますか。
- 設問16 いじめを許さない指導が日常的におこなわれていると思いますか。
- 設問17 他者への貢献や人権意識を高める指導が日常的に行われていると思いますか。
- 設問18 先生とのコミュニケーションが十分にとれ、先生の指導の意図を理解していますか。
- 設問19 基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの仕方を学びましたか。
- 設問20 各学校行事の意義や目的を理解しており、行事を経験する中で自分の成長を感じますか。
- 設問21 異文化を理解し受け入れ、自分化を論理的に適切な言葉で発信していく力がついてきましたか。
- 設問22 高大（あるいは中大、中高の学校同士）の教育連携があると思いますか。
- 設問23 悩みが生じたときに、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談できる体制ができていますか。
- 設問24 工夫された授業や、おもしろい実験などが取り入れられていると思いますか。

中学生全体

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14	設問15	設問16	設問17	設問18	設問19	設問20	設問21	設問22	設問23	設問24
①	169	131	54	103	111	61	75	56	55	61	48	35	78	131	58	99	71	72	94	89	82	71	61	113
②	118	143	150	176	167	136	173	117	178	103	143	116	150	155	161	127	148	136	148	154	161	150	127	127
③	32	43	93	48	44	90	74	121	82	113	113	117	92	43	89	68	83	72	79	85	79	78	84	58
④	31	33	52	20	27	62	27	57	36	71	47	82	30	17	42	56	49	71	30	21	28	51	77	45
無回答	1	1	2	4	1	2	2	0	0	3	0	1	1	5	1	1	0	0	0	2	1	1	2	8

(人数)

凡例：①…そう思う。②…どちらかといえばそう思う。③…どちらかといえばそう思わない。④…そう思わない。



- 設問1 学校生活は楽しいと感じていますか。
- 設問2 この学校に入学してよかったと思いますか。
- 設問3 本校の教育方針を理解していますか。
- 設問4 登下校時を中心に、関大中高等部生としての自覚を持って行動していますか。
- 設問5 事故、事件、災害が発生したとき、どのように行動すればよいのか、指示をうけていますか。
- 設問6 先生方は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていると思いますか。
- 設問7 「情報」「総合」等の授業を通じて、情報に関する倫理やその保護について理解していますか。
- 設問8 関西大学や他の大学に関する情報が増え、大学進学へのモチベーションが上がりましたか。

- 設問9 授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか。
- 設問10 将来やりたいことが見つかり、それに向けて逆算をして準備を始めていますか。
- 設問11 模擬試験後の面談等によって、自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っていますか。
- 設問12 成績が低迷した場合、補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。
- 設問13 課題や提出物にまじめに取り組み、家庭学習習慣は身につけていると思いますか。
- 設問14 自分の学習状況を保護者も把握していると思いますか。
- 設問15 生徒としてのマナーやモラル向上のための指導によって、規範意識が昨年より高まったと思いますか。
- 設問16 いじめを許さない指導が日常的におこなわれていると思いますか。
- 設問17 他者への貢献や人権意識を高める指導が日常的に行われていると思いますか。
- 設問18 先生とのコミュニケーションが十分にたれ、先生の指導の意図を理解していますか。
- 設問19 基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの仕方を学びましたか。
- 設問20 各学校行事の意義や目的を理解しており、行事を経験する中で自分の成長を感じますか。
- 設問21 異文化を理解し受け入れ、自分化を論理的に適切な言葉で発信していく力がついてきましたか。
- 設問22 高大（あるいは中大、中高の学校同士）の教育連携があると思いますか。
- 設問23 悩みが生じたときに、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談できる体制ができていると思いますか。
- 設問24 工夫された授業や、おもしろい実験などが取り入れられていると思いますか。